

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「超スマート社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

異分野共創型の AI・シミュレーション技術を駆使した健全な社会の構築

3. 研究開発課題名

社会政策立案に向けたマルチスケール ABSS 手法

4. 研究開発代表者名（機関名・役職は評価時点）

貝原 俊也（神戸大学大学院システム情報学研究科 教授）

5. 評価結果

評点： S（特に優れている）

総評：

本研究提案は、「デジタル社会実験」というコンセプトの下、大規模エージェントベースシミュレーション（ABSS）等の技術を活用し、仮想空間で社会実験を行うことで施策立案と評価の容易化を目指すものである。

探索研究で開発した合成人口データ生成と ABSS 手法に関する技術が、さまざまな社会課題を解決するための有効な解決手段として実際の政策・施策に活用され、デジタル社会実験の有効性立証につながったことは高く評価できる。

特に、POC の設計について、すでに走り始めている Smart Wellness City プロジェクトを有効性実証の場に活用し、開発目標・社会実装シナリオを明確化したことは、当初の計画を上回る成果と認められる。

本格研究では、都市政策や街づくりを対象とし、ABSS 手法をさらに拡張したデジタル社会実験基盤技術（SPD）の開発を進めながら、POC の達成に向け、これまでの成果を今後いかにして優位に反映させられるかの検討と活動の見える化に留意して研究開発を進めることを期待する。

以上